

平成26年度第2回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会 会議録（概要）

日 時 平成26年8月26日（火）午後3時から午後4時20分

場 所 鎌ケ谷市役所本庁舎6階 第4委員会室

出席者 黒岩史郎会長、高橋貴子副会長、三好志都美委員、山根清孝委員、平野明美委員、  
豊田朋二委員、山本幸子委員、鮫島亘委員、飯高優子委員、田中紘子委員、  
鈴木君江委員、高橋徹委員（鎌ケ谷市社会福祉課長）、村田セツ子委員  
西山珠樹委員（鎌ケ谷市健康増進課主幹）、早坂ひとみ委員、

欠席者 小池満弓委員、山澤光史委員、梅田和男委員、上谷豪委員、江間由紀夫委員  
（※敬称略）

事務局 山田障がい福祉課長、坂居課長補佐、藤嶋係長、橋本主任主事、  
横山主事、米良康史（もくせい園）

コンサルタント 株式会社地域計画連合 担当者A、担当者B  
（第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画策定業務委託業者）

公開・非公開の区分 公開

傍聴者 なし

配付資料 式次第

第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画のためのアンケート調査結果報告書

障害福祉サービス等の計画と実績値及び地域生活支援事業の計画と実績値

第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画の策定スケジュール（案）

第二期鎌ケ谷市障がい者計画

※第二期鎌ケ谷市障がい者計画を所有している委員については、会議終了後回収

## 【開会】

〈委嘱状の交付〉

民生委員・児童委員協議会の井出委員から村田委員に変更となる旨を伝えた上で、村田委員に委嘱状を交付した。

(任期 平成26年8月26日から平成28年3月31日まで)

〈本日の会議の概要〉

障がい福祉課長から、自立支援協議会の第2回の会議となるが、第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画策定に伴う議論の場の初回である。また、基幹型相談支援センターのあり方に係る検討委員会設置の件についての確認及び研修会に関するお知らせを行うことを伝えた。

## 【会長挨拶】

お忙しい中、お集まりいただいたことに感謝する。これより、今年度第2回自立支援協議会の会議を開催する。

## 【会議の出席状況について】

橋本主任主事から、欠席委員を述べた上で、20人中15人の出席により定数の過半数を満たしていることを報告した。

## 【議題】

〈第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画の位置づけについて〉

障がい福祉課長から、第3期障がい福祉計画を用いて、第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画の位置づけについて説明を行った。(第1回自立支援協議会の会議の配付資料「第3期鎌ケ谷市障がい福祉計画」1ページ参照)

会 長 説明に対して質問があればお願いしたい。

(委員より、特になし)

## 〈アンケート調査の結果報告〉

コンサルタント 担当者Aから、障がい福祉計画のために作成したアンケート調査の結果報告及び障がい者団体へのヒアリングの概要について説明を行った。(資料「第4期鎌ケ谷市障がい福祉計画のためのアンケート調査結果報告書」参照)

会 長 結果報告書は分厚いため、本日のみで質問、討議を行うということではなく、次回の会議以降、何回かに分けて議論を行う予定である。説明を受けて質問があればお願いしたい。

委 員 ヒアリングの概要説明に関して、団体の方が新規会員の獲得を頑張っている、とあったが、これはどのような団体を指しているのか。

事務局 本市ではアンケート調査のみならず、障がい者団体へのヒアリングを実施した。その際、「NPO法人鎌ケ谷市手をつなぐ親の会」、「鎌ケ谷市身体障がい者福祉会」、

「心の健康を支えあうききょうの会（精神障がい者家族会）」、「ポコ・ア・ポコ（鎌ヶ谷市肢体不自由児・者を育てる会）」、「千葉県膠原病友の会」、「鎌ヶ谷市聴覚障害者福祉会」の6団体を選出した。ヒアリング概要説明では、それらの団体について申し上げた次第である。

会 長 アンケート調査報告書において、障がい別のクロス集計で「精神障害者保健福祉手帳」と「自立支援医療受給者証（精神通院）」という区分となっているが、別カウントで行っているのか。重複することはないのか。

事務局 別カウントで行っており、重複することはないような区分となっている。

会 長 障がいの種類によって報告の内容が異なってくるが、この内容から、来年度以降3か年（平成27～29年度）の実施期間となる障がい福祉計画のニーズ調査のようなものにあたる。今後、委員で供給量の設定について審議いただく。他に質問はあるか。

（委員より、特になし）

〈現行計画の見込み量と平成24・25年度の実績について〉

坂居補佐から、資料「障害福祉サービス等の計画と実績値」を用いて、障害福祉サービスの計画と実績値について説明を行った。

会 長 続いて、地域生活支援事業の説明をお願いしたい。

藤嶋係長から、資料「地域生活支援事業の計画と実績値」を用いて、地域生活支援事業の計画と実績値について説明を行った。

会 長 内容について、質問があればお願いしたい。サービスの見込み量と実績がそぐわない結果となった場合、どのような対応となるのか。数値に関して、千葉県からの介入等はあるのか。

事務局 毎年報告を行う際に、千葉県から意見が出ることが予想される。そのため、実態に即した数字を算出する必要がある。

副会長 「計画相談支援」の平成26年度見込みが30人となっているが、望ましい数字のようには思えない。

事務局 計画の中で10人ずつ増やしていくということであるが、10人、20人、30人のような増やし方が適切であるかどうかは定かでない。

委 員 「施設系」の「共同生活援助（共同生活介護含む）」について、グループホーム・

ケアホームも含まれるのか。

事務局 平成26年度からグループホーム・ケアホームが一元化されたことに伴い、表で1行に集約した。ただし、平成24年、平成25年時点では分けて表示していた。表においては、足し上げた合計値が「実績」となっている。

委員 平成26年度で実績が29人ということは、グループホーム・ケアホームが足りないということになるのか。

事務局 見込みでは、グループホーム・ケアホームを10人ずつ増やすということであった。とりわけ、当時はグループホームについては現状維持、ケアホームについては10人ずつ増やしていくという内訳となっている。つまり、グループホームが、平成24年度は20人、平成25年度は20人、平成26年度は20人で、ケアホームが平成24年度は20人、平成25年度は30人、平成26年度は40人という内訳である。本市では、グループホームの利用者数が横ばいである。ご指摘のとおり、本市は同一人口規模の自治体と比較して施設の数が少ないという点がある。徐々に増加していることも事実だが、利用しやすい至近の距離にあるといった施設の数が少ないことが要因のひとつとして考えられる。

委員 当施設に通っている方で、把握している範囲では、グループホーム・ケアホームの利用者は20人前後である。第4期鎌ヶ谷市障がい福祉計画策定にあたり、グループホームを増設する予算について記載して欲しい。

事務局 グループホームは、入所の考え方に関連している。入所においては、一定数を徐々に減らして地域へという方針がある。待機の方が10人以上いるという報告を行ったが、本来の形のように、グループホームに導くべきものとして、今後、定員数を増やしていく必要があると考えている。

会長 共同生活援助（共同生活介護含む）にグループホーム・ケアホームが一元化されたとのことだが、施設系サービスではなく、「居住支援サービス」というくくりが適切ではないか。

事務局 提示の資料は、千葉県指定様式を使用したくくりである。

会長 見込み量について、必ずしも事業所の不足ではなく、近隣で利用できるものを確保できる、という意味での「見込み」と捉えるべきか。

事務局 市内に増設されると、通いやすくなることから、比重としては市内の利用者が増えるが、グループホームの利用者が全て鎌ヶ谷市民というわけではないため、絶対とはいえない。

会 長 それでもなお、市内の増設に関して努力をするという考え方はあるのか。

事務局 グループホーム運営費補助があつて1年に一度、千葉県のスケジュールに沿って計画が出される際、本市として、当然ながら申請に対し、計画と照合しながら千葉県に進達をしていく。現時点において、グループホームの計画に関して、抑制するものではないため、方向転換するものではないと認識している。むしろ、入所施設との兼ね合いにおいて、より拡大すべきものではないかと考えている。

会 長 施設から地域へということで、施設の補助が基本的には平成23年度末になくなったため、居宅系のサービスにシフトしていくとの説明があつた。それ以外に質問はあるか。

(委員より、特になし)

会 長 特になければ、本日配付した資料を確認いただければと思う。

<今後のスケジュールについて>

障がい福祉課長から、資料「第4期鎌ヶ谷市障がい福祉計画の策定スケジュール(案)」を用いて、今後のスケジュールについて説明を行った。

会 長 残り4回の会議の開催予定において、次回第3回目以降は会議の開始時間を早めるとのことであつた。今後のスケジュールについて、質問はあるか。

委 員 「パブリックコメント」とあつたが、どういった人に対してパブリックコメントを実施するのか。

事務局 パブリックコメントは、市でさまざまな形で実施している。条例の改正等でパブリックコメントを通して、市民に変更箇所を示し、それに対するご意見をいただくというのがパブリックコメントである。国、県も同様の形でそれぞれ実施している。市民の方からパブリックコメントをいただき、本市が回答をするという形となっている。

委 員 「市民」にあたる人たちとは、全てに公募するのか。それとも、町内会、自治会等の特定の市民に対して実施するのか。

事務局 パブリックコメントについては、本市のホームページで行う。場合によっては、各公民館等で計画案を設置し、ご意見をいただくこともある。

会 長 計画案が完成したら、広く市民から意見を聞くとのことであつた。他に意見はあるか。

(委員より、特になし)

#### 【その他】

〈基幹型相談支援センターのあり方に係る検討会の設置について〉

障がい福祉課長から、基幹型相談支援センターのあり方に係る検討会について説明を行った。第1回の自立支援協議会の会議の中で、基幹型相談支援センターに関するプロジェクトチームについて、議論が交わされたところであるが、この度プロジェクトチームを立ち上げることとなったので報告する。メンバーについては、各部会から2名と広域的な事業所の立場として「中核地域生活支援センター習志野圏域・なかまネット」から1名を推薦させていただいた。個別支援部会から高橋部会長、田中部会員、福祉サービス部会から飯高部会長、山根部会員、発達支援部会から丹野部会員、吉田部会員、権利擁護部会から矢野部会長、黒岩部会員、「中核地域生活支援センター習志野圏域・なかまネット」から上谷所長、以上9名を選定し、各部会員から承諾をいただいている。検討期間については、検討回数おおむね8回程度で考えているため、年度内に終了しないという断りを話した。最後に、この件について了承いただければ、第1回の基幹型相談支援センターに関するプロジェクトチームの会議を来月9月初旬で予定することを伝えた。

会 長 基幹型相談支援センターについては、アンケートの中でも相談に関するニーズが高い上、第3期障がい福祉計画において重点項目でもある。また、部会で「相談支援部会」という部会がないため、プロジェクトチームで、ぜひお願いしたい。質問はあるか。了承ということよろしいか。

(委員より、了承)

〈研修会について〉

障がい福祉課長から、研修会について説明を行った。日程は10月27日(月)午後3時からであることを伝えた。鎌ヶ谷市役所において、相談支援、基幹型相談支援センターに関する内容について、帯広市の特定非営利活動法人十勝障がい者総合相談支援センター理事長の門屋 充郎(かどや みつお)氏を招いて研修を行うこととなった旨を伝えた。費用は、当初個別支援部会で研修費用として確保したものを使用する予定である。研修会の対象者として、各部会員、当協議会の委員、部会員及び委員の所属する施設等の職員という方向で考えている。後日改めて通知を行うことを伝えた。

会 長 門屋氏は、全国相談支援事業所の連絡協議会代表で、専門は、おそらく精神障がい分野であると記憶している。後日、研修会に関する連絡があるとのことであったため、ぜひ参加をお願いしたい。特に質問はないか。相談支援というテーマに絞り込んでいる研修会とのことである。

〈自立支援協議会の委員及び専門部会の部会員の選出について〉

障がい福祉課長から、自立支援協議会の委員及び専門部会の部会員の選出について、説明を行った。自立支援協議会の委員については、相談支援事業者、障がい福祉サービス事業者、

保健・医療関係者、教育関係者、権利擁護・地域福祉関係者、障がい者団体関係者、行政関係機関職員及びその他市長が必要と認める者の各事業所や団体等のご協力をいただき、現在20名で構成されている。任期は、3年間で平成25年度から平成27年度まで委嘱している。平成17年度当時から、現在と同じサービス事業所等から委員を推薦していただき委嘱しているが、サービス事業所等が増加しているという点などから、来年度末までは現状を維持し、平成28年度以降は、改めて事業所の選定を行うことを検討している。また、専門部会に関しては、今年度末（平成27年3月31日）で終了となるため、部会員を改めて選任する必要があり、従来、事業所等からの推薦であった経緯があるが、固定的になる可能性があるため、各部会の部会長、副部会長と事務局での部会員の選出に関して検討し、自立支援協議会の会議に諮り、適正な部会の運営に繋がりたいと考えている旨を報告した。

会 長 今後、委員の選出について再検討するとのことであった。自立支援協議会は当時の教育、就労、医療、サービス事業者、当事者団体等を網羅していたが、事業所が増加したことから、事業所等の再検討が必要な時期となっている。この点について質問はあるか。

（委員より、特になし）

#### 【報告事項】

〈次回会議開催日程等について〉

橋本主任主事から、次回の会議が10月7日（火曜日）午後2時30分から予定されていることを伝えた。場所は、鎌ヶ谷市役所本庁舎6階第1・第2委員会室であることを伝えた。

障がい福祉課長から、会場の場所を説明した。

会 長 アンケート調査報告書については、読み込んでいただき、次回の会議に臨んでいただきたい。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成26年9月9日

氏 名 西山 珠樹

氏 名 高橋 徹